

開催日及び場所		平成29年12月14日(木)	横浜植物防疫所会議室	
委員		吉武 雅子(大学講師) 菊池 哲史(公認会計士) 田鍋 智之(弁護士)		
審議対象期間		平成29年7月1日～平成29年9月30日		
審議対象案件		5件 うち、1者応札案件0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件0件		
抽出案件		3件 うち、1者応札案件0件 (抽出率60%) (抽出率-%) 契約の相手方が公益社団法人等の案件0件 (抽出率-%)		
抽出案件内訳	工事	一般競争	0件 うち、1者応札案件1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件1件	
		指名競争	公募型指名競争	-
			工事希望型競争	-
			その他の指名競争	-
	随意契約	-		
	業務	一般競争	-	
		指名競争	公募型競争	-
			簡易公募型競争	-
			その他の指名競争	-
		随意契約	公募型プロポーザル	-
			簡易公募型プロポーザル	-
			標準型プロポーザル	-
	その他の随意契約		-	
	物品・役務等	一般競争	3件 うち、1者応札案件1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件1件	
		指名競争	-	
		随意契約(企画競争・公募)	-	
随意契約(その他)		-		
(特記事項) 特になし				
		意見・質問	回答等	
委員からの意見・質問、それに対する回答等		動物検疫所中部空港支所における検疫探知犬を用いた探知サービス委託業務 ・業者間で金額の開きがあるが、原因は把握しているか。  ・動検としての探知犬の配置計画はどのようになっているか。  ・AIなどで対応はできないのか。  ・育成した犬の探知能力の確認は行っているか。  ・当初入札への参加を予定していた業者が辞退した理由は確認しているか。  ・探知犬はだいたいどのくらいの年齢まで活動できるものか。  ・5年間活動した犬は動検で引き取ったりはしないのか。  ・応札者は探知犬の育成以外にどのような事業を行っているのか。  ・応札者が例年2～3者であるが、他に手を挙げそうなところはないのか。	聞き取りをしているわけではないが、国内外関係なく訓練が可能であればよいと仕様書で謳っているため、おそらく落札業者は国内で、それ以外の業者は海外で訓練を行うのではないかと考えている。  予算との兼ね合いもあるが、2020年のオリパラまでに少しずつ増やしていきたいと考えている。  機械化の予定はない。  導入時に動検職員による確認試験を行っている。また、導入後も定期的に業者や動検職員によるチェックを実施している。  聞き取りは行っていないが、おそらく実施体制が整わなかったのではないかと。  一般的に使役犬は10歳くらいで引退すると聞いている。なお、動検では過去に4頭が引退している。  国の犬ではなく業者の犬なので、探知活動期間終了後については業者で対応することとなる。  ペット関係の物品の販売などを行っているという話を聞いている。  探知犬の需要が動検しかないため、犬やハンドラーを育成できる者が国内に少ないのが現状である。	
		動物検疫所沖縄支所古波蔵検疫場土壌汚染調査業務 ・参考見積を徴収した業者が落札しており、参考見積額と入札額に大きな開きがあるようだが、原因は把握しているか。  ・調査項目は動検で選んだものか。  ・落札率が低かったが、調査はしっかり行われたのか。  ・もしも動検の活動による汚染であると判断されれば、国が汚染土壌の除去を行う必要があったのか。	隣地の土壌汚染調査を担当しており、その際のノウハウを活用して、金額の見直しを行ったものと考えられる。また、機材を自前で持っているかどうかによっても変わってくるのではないかと。  土壌汚染対策法により決められているものである。  動検の活動に由来するものではないが、1区間で環境基準を超える砒素が検出されていることから、きちんと調査されているものと認識している。  然り。ただし、自然由来によるものと判断されたため、その必要はない。	
		分光蛍光光度計ほか購入 ・参考見積を提出したもう一者が入札に参加しなかった理由は。  ・入札に参加したもう一者はこれまで動検の入札に参加した実績はあるか。	一者応札案件ではないので、確認していない。  おそらく初めて参加したのではないかと。	
委員会による意見の具申又は勧告の内容  [これらに対し所長が講じた措置]		特になし		